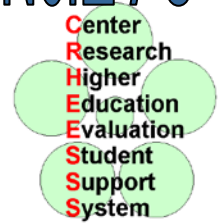


週刊センターニュース No.276



第276号(2009年9月14日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

○●○ 第245回共同学習会のご案内 ○●○

主催: 大学教育開発・支援センター

企画: 教育企画会議就職支援部会

日時: 9月29日(火) 16時30分~18時 ※開催曜日が通常と異なりますのでご注意ください。

会場: 角間キャンパス 総合教育1号館2階 会議室

テーマ: 「大企業, 首都圏企業の就職状況—就職支援力を高めるために5—」

報告者: 採用プロドットコム株式会社代表取締役 寺澤康介

内容: 教育企画会議就職支援部会では、現在の経済状況等を背景に、大学として、また個々の教職員が学生の就職活動をどのように支援していくべきか、学内外からの情報をもとに、継続的に議論の場を設けている。シリーズとしての第5回は、多くの企業の採用担当者が登録・活用している専門サイト「採用プロ.com」の寺澤氏に、主要企業の採用戦略のポイントについてご講演いただく。おりしも、学生たちの首都圏での就職活動のサポートポイントとしての役割も担った、本学の新しい東京事務所が、今夏、日本橋にオープンした。首都圏を中心とした大企業に就職を希望する学生たちをどのように支援すべきか、認識を深めるため、広く、教職員・学生・院生の参加を求めたい。

○●○ 科学研究費補助金「学習意欲を高める授業科目が教育成果全般に及ぼす影響とその評価(基盤研究c 20600007)平成20年度~24年度」に基づく研究成果—「2009PCカンファレンス」と「日本リメディアル教育学会第5回全国大会」における報告— ○●○

標記につき公開する機会を得たので、内容について報告する。予稿集の原稿と当日報告のパワーポイントデータについては、当センターHPに掲載しているもので、詳細はそちらをご覧頂きたい(PCカンファレンスの報告内容は、ウェブ上でも公開されている『2009 PCカンファレンス論文集』

<https://www.gakkai-center.jp/pcc/2009/papers/search/index.php>)。

「2009PCカンファレンス」は8月9日-11日、愛媛大学で開催された。主催はCIEC(コンピュータ利用教育協議会、会長: 妹尾堅一郎 東京大学)と全国大学生生活協同組合連合会、後援は文部科学省等であり、参加者は約1,000名。CIECはそのホームページによれば、Council for Improvement of Education through Computersの略称で、教育・研究へのコンピュータ利用の在り方と可能性を考える、日本学術会議登録学術研究団体であり、今回のカンファレンスは「変わる社会 変わる学び 変わるコンピュータ—産官学民際連携ネットワークの探求—」を基本テーマに開催された。

私は、教育方法についての分科会で、「授業内容改善研究(FD)に結びつくクリッカーの活用—大学文系授業の一例—」と題して報告を行った。<本学で担当した「日本国憲法概説」と「生命倫理学」の授業で、受講前知識確認シート、ミニッツペーパーに加えて、受講生の知識および授業内容理解を適時に把握するためクリッカーを用いた結果、学生アンケートによればそれが学習動機付けを高める効果がある>という内容であった。

聴衆は20名ほどであり、質疑時間が限られており、クリッカー未使用者からの使用方法についての質問があっただけであった。分科会終了後、大分大学教育福祉科学部長大岩幸太郎教授(情報教育学)から興味ある報告であった旨の感想が告げられたこと、また、京都大学経営管理大学院若林康永教授(CIEC副会長)より、具体的にクリッカーの匿名性を生かした利用とFDへの直接活用について内容の確認があったことに、研究継続に向けた意を強くした。研究成果報告としては一定の効果があったと判断している。

なお、教育支援システムの分科会では、北海道大学の山田邦雅氏の「北海道大学における貸し出し

用クリッカーの導入と現状」と題する報告があり、今後、授業におけるクリッカー活用を進め、その研究成果を他のクリッカー活用授業担当者間で共有すべきであると痛感した。

「日本リメディアル教育学会第5回全国大会」は、9月1日と2日、千歳科学技術大学で、「学士教育課程共通で求められる学習成果に向けた新たなリメディアル教育－利活用可能なリメディアル教育デザイン－」をテーマに開催された（参加者は不明だが300～400名と推測）。

私は「ポータルとクリッカーを活用したグループワークによる学生の学習動機付け」と題して、一般セッションの分科会で報告した。内容は今年度前期共通教育科目「学生と大学システム」で試みたアカンサスポータル上でのグループワークを中心に、それが学生各自で伸ばすべき能力の意識化＝学習動機付けにつながるものであることを、学生アンケート結果分析から示したものである。

聴衆は（2日目最後の17時開始ということもあり）8名。質問は、既にクリッカーを使っている教員から、学生のプレゼンの相互評価にクリッカーを使う意義についての確認がなされただけであった。

さて、この学会参加で私が得たものは大きかった。私は開催前日のティーチ・インから参加した。まずここで、学会長の小野博氏（メディア教育開発センター）の包容力もあってか、そこで自由闊達な意見交換のなかで、各大学の教員が、学生の学習意欲を高めるために種々の工夫をしていることが、その熱意とともにはっきりと伝わってきた。合宿形式であり、夕食は、翌日の招待講演者Hunter R. Boylan, Ph.D. (Professor of Appalachian State University/Director of the National Center for Developmental Education)を交えた宴会となり、私も初参加ながら、関連企業関係者などと意見交換する機会を得た。企業人が大学を外からどう見ているのか、参考になった。そして、翌朝の旅館露天風呂では、たまたま一緒になった和歌山大学や大阪府立大学の教員とFD談義となった。（かつて本学でも、小松市で教養教育についての一泊研修を行っていたが、その折りも、夜更けまでの議論、風呂場での意見交換があったことを思い出した。）

各分科会での報告では、新しい授業法、教材開発が相次いだ。いずれも、リメディアル教育が必要な学生たちに対して、どのようにすれば学習意欲を持たすことができるかという必然的な課題から取り組まれた成果報告であり、特に若手教員たちの必死さが伝わってくるものが多かった。こうして得た情報を、本学のFD実践に生かしていきたいと思いつつ、会場を後にした次第である。

（文責：教育支援システム研究部門教授 青野 透）

〇〇〇 「2009年度大学コンソーシアム石川FDフォーラム」開催のご案内 〇〇〇

テーマ：「学士力育成と教育の質保障を目指して」

趣旨：昨年12月の中教審『学士課程教育の構築を目指して』答申において示された重要な事項に、学士力という考え方があります。文部科学省も、「各大学・短期大学・高等専門学校から申請された、各大学等における学士力の確保や教育力向上のための取組」を支援する「大学教育・学生支援推進事業」を始めました。学士力の育成と教育の質保障について、機関の種別を超えて議論することは、全ての高等教育関係者の喫緊の課題です。高等教育機関教職員・学生のみならず、多くの市民の参加を期待します。

主催：大学コンソーシアム石川

日時：2009年10月17日（土） 13時～17時 （12時30分開場予定）

会場：石川県教育会館 3階 ホール 金沢市香林坊1-2-40

内容： **第一部** 13時10分～ 基調講演

『学士力育成と大学教育改革－金沢工業大学の実践－』 石川憲一（金沢工業大学学長）

第二部 14時30分～ 報告

1. 専門学習達成度試験とプロジェクト型学習による学生の能力向上

石川工業高等専門学校電子情報工学科准教授 山田洋士

2. 「短期大学士力」育成にとっての課題を考える 小松短期大学学長 鹿野勝彦

3. 金沢大学における学士力に関する学生と教員の認識－全学アンケートの結果より－

金沢大学大学教育開発・支援センター教授 堀井祐介、同 特任助教 末本哲雄

4. パネルディスカッション（パネリスト：石川、山田、鹿野、堀井、末本）

【問い合わせ先】大学コンソーシアム石川事務局 担当：大野

TEL.076-223-1633 FAX.076-223-1644 E-mail：shukan2@ucon-ijp